

(仮称) 上空公園広場に対する主な意見 (案)

防災・にぎわいなど広場分科会

来年度（平成 24 年度）、区制 80 周年を迎える渋谷区は、東日本大震災（2011. 3. 11）以降の防災機能の強化はもちろん、アジアのヘッドクォーターとなり得るような国際的な観光文化都市を目指しています。

こうした中、防災・にぎわいなど広場分科会としても防災機能と国際競争力の強化を重要と考え、その第一歩として事業者から提案のあった（仮称）上空公園広場（以下、広場と称す。）の中身について検討しました。

具体的には分科会を 6 回、地元説明会を周辺商店会毎、まちづくり協議会毎に計 13 回開催して多数のご意見をいただき、下記の通り、この広場に関する主な留意点・要望事項をとりまとめましたので、ここにご報告いたします。

広場のあり方

- 駅施設や周辺開発との連携を踏まえた防災機能に関し、基本的な考え方は示されたが、根拠となるデータ（駅周辺で発生する避難者数、必要とされる避難空間面積、必要な備蓄量、トイレ・水飲み場のキャパシティ、情報発信等）及びこの広場と一体的な民地活用方法を具体的に示されたい。
- もう一つの柱である国際競争力の強化に関し、基本的な考え方は示されたが、周辺地域との連携を踏まえた、この広場におけるアクティビティ・イベントなど及びこの広場と一体的な民地活用方法を具体的に示されたい。
- 「まちづくり指針 2010」、戦略 3 “都市回廊を創出する”～元気な若者に限らず、だれもがめぐり歩いて楽しいまちの実現～、指針 1 【地上部を主に駅と周辺市街地を結ぶ開かれた歩行者ネットワークの強化・連携】というコンセプトのもと、この広場整備による、今後のまちづくりへの影響を最も大きく受ける中央街に十分配慮し、特に、地上の環境対策については、具体的に示されたい。

管理・運営・地元連携

- この広場については防災への対応を第一とし、管理・運営、行為の制限・禁止、手続きなどについて広場管理条例等を策定し、ルールの明確化を図ることが望ましい。併せて、国際競争力の強化を謳うのであれば、現在のハチ公広場における客引き・ビラ配り等の迷惑行為及び違法ドラッグの販売等や無秩序な利用実態に鑑みて、警察、渋谷区及び周辺街区と協力し、これらの行為についても的確に対応されたい。

- ハチ公広場と旧大山街道は、渋谷におけるにぎわいの歴史的な中心である。この広場が、この中心性を侵すことなく、むしろ発展させる方向で機能するよう、ハチ公広場、ハチ公地下広場（予定）、4階広場空間、東口広場を含め、周辺の広場や民地内の広場的な空間との役割分担をしっかりと考えたい。
その利用の具体的内容（各種防災活動やイベント等）を含め、周辺の町会・商店会・まちづくり協議会と十分に調整を図られたい。

歩行者回遊性

- 中央街への動線は、現状において5万人/日であるのに比べて、開発後は13万人/日と2.5倍以上となるというが、その数字の信頼性・根拠について改めて明示されたい。
また中央街への歩行者流動が増大することは、望ましいと思うが、駅を出て空の見える真直ぐな広い通路が1階部分に確保できたのに、新宿西口のように、それを暗くして、臭い空間にするのでは意味がないと思われる。具体的に、中央街へ繋がる長さ約80mの広い通路の、にぎわいの創出を含めた環境改善案を提示されたい。
- この3階広場、JR上空の4階広場空間などの2階以上の広場空間については、歩行者が周辺のまちへスムーズに流れる分かりやすい動線を確保されたい。特に東口の宮下公園側への動線及び渋谷三丁目方面、桜丘方面の動線は重要であり、議論を進め確保されたい。
- 旧大山街道プロジェクト（歩道拡幅、自転車走行路及び植栽等）及び神宮通り（歩行空間の環境改善及びタクシー停車列の解消等）の整備並びに交差点の歩車道分離（スクランブル化）など、交通環境整備との連携を含め、回遊性向上に資する計画を併せて考えられたい。

検討組織

- 今後、地元在住の識者も参加する（仮称）上空公園広場検討委員会を立ち上げ、以上の留意点も含めた具体的な計画を検討し、より良いまちづくりに資するよう、地元、事業者及び渋谷区が一体となり、この広場の方向性を示されたい。

分科会の目的

- 防災・にぎわいなど広場分科会は、事業者からの具体的な提案があったことから、まずはこの広場についての議論から始めたが、分科会の目的である、防災・にぎわい広場及びそれらに関する公共施設等についても、今後議論してまいりたい。

以上